

問題 次の文章は、山極寿一の著書、『スマホを捨てたい子供たち』の中の一節です。読んだ後の問い（問1～問3）に答えなさい。

科学技術には良い面もあれば悪い面もあります。最初は良い面に注目が集まりますが、ある域を超えると今度は※ネガティブな面が強調されていきます。ダイナマイトを考えてもそうでしょう。最初は人間の力が及ばない物を壊すために非常に役立ったのに、それがやがて社会を破壊する戦争の道具に使われるようになりました。言葉も同じです。

言葉は、人間が手にした技術の中で最初にして最大のものといってよいと思います。人間の認知能力は、言葉の発明によって一度つくり変えられました。これが、「認知革命」と呼ばれるものです。かつて言葉は人々の間のトラブルを調整するための交渉にも使われていたはずだし、集団間の暴力を鎮めるためにも使われていたでしょう。だから人間は集団を大きくすることができました。国家という巨大な組織をつくることも、言葉によってバーチャルな世界をつくり、その物語を共有してみんながまとまれるようになったからです。ダイナマイトと同様、最初は言葉もよい作用をもたらしました。しかし、やがてその言葉が、暴力をつくり出すために使われるようになると、だんだん人間にとってネガティブな作用をし始めます。

言葉を発達させるうちに、文字も生まれました。最初は、石や木に書いていた文字を、紙に書くようになり、やがてそれを印刷するようになる。さらに技術が進み、テレックスができ、ファクスが生まれ、そして今、ぼくたちはインターネットを通じて電子文字でつながるようになりました。

①そもそも文字を介した理解には、常に疑いがつきまといまふ。会って話していれば、発せられた言葉だけの意味ではなく、相手の顔の表情や仕草、声色から裏の意味や背景を同時に感じるができます。相手の言葉を聞きながら、「おそらく嘘を言っているな」とか「本気みたいだな」と思ったりするのは、人間は言葉を話しているとき、無意識のうちに感情を出すものであり、同時に相手の感情を読み取る能力を持っているからです。話し手は、相手の解釈が間違っていると感じたなら訂正することができます。本来、言葉の役割が発揮される場所は、こうしたやり取りが可能な場所でした。

(中略)

ラインなどのSNSがあたかも対話しているかのような使われ方をしていますが、それは、あくまでシンボルを使った文字世界の延長です。ラインを利用している人の中には、すぐに返事が来るから対話と同じような信頼関係を作れていると反論する人もいるかもしれませんが、その論理には二重の意味で誤解があります。

一つは、言葉は抽象化されたものだということ。誰かと話をしていても、それは出来事すべてを表しているわけではなく、出来事をいったん言葉という抽象的なシンボルに集約してそれを再現しているだけのものです。実際には、言葉だけで相手の感情はわかりません。

もう一つは、文字化したり、肉声でないものに変換してしまったりした場合、そこにさらに時間的な要素が加わるといふことです。言葉を話すということは本来、瞬間の作業でもあ

ります。対話を書き言葉にすると、Aさん「・・・」、Bさん「・・・」というように、時系列に並べられることになりませんが、実際は、相手が話しているとき、相手の言葉を聴きながら、自分が次に話すことを考えている。それは書き言葉では表現できません。文字は、相手の言葉を受けて考えた結果出てくるものではあるけれど、その瞬間に自分の胸の中に生じた感情とは違うものです。書き文字の行間を読み取ることはできても、実際に言葉を肉声をもって交わし合っている状況とは違うのです。そこにも齟齬が生じます。

ぼくたちは、誰かに会いに行くときには、服装や身だしなみを考えますね。相手によっては敬語も使う。そういうときの緊張感は、身体からほとぼり出るものです。ところが、スマホで言葉を文字でやり取りするだけなら、礼儀も敬語もそれほど気にしないでいい。だから相手によって変えることをしなくなります。相手が不特定多数であれば、ますます身構えがなくなっていくます。

さらに、顔も知らない相手から得た情報に対しては、勝手に想像ができる分、実際に会ったときに、文字の情報に裏切られるかもしれないし、それがコミュニケーションの足かせになるかもしれません。だから行き違いも起こるし、それがときに犯罪に結びつくこともある。②言葉はもともと、緩衝材の役割を果たしていましたが、今は文字に引きずられて、行動を誘発している。会って「殺してやる」と言われたなら、「バカやろー」と言い返せるし、取っ組み合って解消できることもある。殺すなどという行為はそうそう実現しません。でも、文字は、読み方次第でいくらでも想像が広がります。それが知らない相手であればなおさらでしょう。「殺される！」と恐怖で身がすくんでしまうかもしれません。

言葉を生み出し、文字を発明し、今、インターネットの世界を介して言葉をやり取りしているぼくたちは、こうした言葉の負の面にもあらためて目を向ける必要があるのではないのでしょうか。

スマホにかじりついているなと思う人は、一度「スマホ・※ラマダン」をやってみるといいと思います。ぼく自身は、インターネットやEメールこそ利用していますが、スマホやSNSは利用していないので、日ごろからスマホ・ラマダン状態です。さらに、フィールドに行ったらまったくメールも見ることができなくなるので、完全なデジタル・ラマダン状態になります。

ここまでしなくても、期間を決めてデジタルを断つてみると、スマホの利点も欠点もわかるようになるのではないのでしょうか。そもそもラマダンとは人間に不可欠な飲食を断って、空腹を体験し、飢えた人への共感を育むこと。食べるといふ本源的な欲を断って、苦しい体験を分かち合うことで連帯感を高めることです。③スマホはいつたいどんな人間の欲に基づいているのか。スマホの有用性を知るためにも、一度それを断つてみることも必要だと思います。

(ポプラ新書一八四 二〇二〇年六月刊)

【※注】

ネガティブな 否定的な

緩衝材

動きの異なる複数の物体が干渉し合うことによって物体が破損することを防ぐために、間に挟む物、およびその素材を言う。

ラマダン

イスラム歴9月の断食月のこと。この1か月位の間、イスラム教徒は夜明けから日没まで断食を行う。

【補足】

文字の誕生

日本語は、音を表すひらがなやカタカナ（表音文字）を持ち、中国語は山や川のように、その形が意味を表す象形文字を生み出しました。世界には文字を持たない言語も多く存在しています。

問1 傍線部①「そもそも文字を介した理解には、常に疑いがつきまといまいます。」とあるが、

筆者はなぜこのように考えるのか。六〇字以内で説明しなさい。

問2 傍線部②「言葉はもともと緩衝材の役割を果たしていましたが、今は文字に引きずら

れて、行動を誘発している。」とあるが、筆者はなぜこのように考えるのか。一〇〇字以内で説明しなさい。

問3 傍線部③で筆者は、一度スマホを断つてみることを勧めている。あなたは、スマホを

含めた情報通信技術やAI（人工知能）のさらなる活用によって、社会および人々が今後どのように変化していくと考えるか。七〇〇字以内で述べなさい。